

「大学院の国際連携による衛星リモートセンシングの人材育成」

1. H26年度実施内容及び成果の概要

本事業は平成21年度文部科学省委託事業「国際連携による衛星リモートセンシング人材育成」を引き継ぎ、平成22年度より開始された山口大学大学院理工学研究科とウダヤナ大学（インドネシア、デンパサール市）大学院環境研究コース衛星リモートセンシング専修課程との共同教育・研究である。

平成21年度から10科目の共同授業を開始し、平成26年度には新たに「気象力学特論」を加え、遠隔授業システムを用い11教科、250時間、延べ28名の講師による講義を実施した。平成26年度からウダヤナ大学大学院にベトナム、東チモールからの留学生を迎えることができた。山口大学からも大学院生2名（博士後期課程、博士前期課程）をウダヤナ大学に短期派遣した。

平成23年度から開始されたダブルデGREE制度により、毎年2-3名のウダヤナ大学大学院生が山口大学大学院博士前期課程に進学し、両大学から修士の学位を得ている。それらの学生は引き続き山口大学大学院博士後期課程に進学し、最上級の2名は現在同課程3年になり、それぞれ国際学術誌（査読付）に投稿した論文が採択された。

環境や防災などの自然科学だけでなく幅広く社会経済の分野での人材育成事業を継続的かつ安定的に行うために、年度当初からインドネシア財務省と共同研究、奨学金に関する協議を重ね、27年3月に学術交流協定(MOU)を締結した。これには奨学金給付に関する事項も含まれ、今後の人材育成を支えるシステム運営への寄与が期待できる。

このほか、2. で述べるように、国際行事にも積極的に参加し、本事業の教育研究活動をアピールした。



共同授業の様子



インドネシア財務省でのセミナー

2. 成果展開の状況

①大学院学生の国際学術雑誌への掲載

- Shallow-water benthic identification using multispectral satellite imagery: Investigation of the effects of improving noise correction method and spectral cover, M. D. M. Manessa, A. Kanno, M. Sekine, E. E. Ampou, N. Widagti and A. R. As-syakur, Remote Sensing, ISSN 2072-4292, No.6, pp.1-15, 2014.
- Characterization of bigeye tuna habitat in the Southern waters off Java-Bali using remote sensing data, M. D. S., A. B. Sambar, F. Miura, T. Tanaka A. R. As-syakur, Advances in Space Research, No.55, pp.732-746, 2015.

②国際的な学術団体の企画への参画

- PORSEC2014 (汎海洋リモートセンシング国際会議) (ウダヤナ大学、インドネシア宇宙庁の共催)へ、田中教授、大澤准教授が実行委員として参画、また留学生4名が研究発表、トレーニングに参加した。
- 2nd Asia Future Conferenceに三浦教授が参加、本事業の内容および成果を発表した。



PORSEC2014 閉会式の様子

3. その他

- 平成27年度は本事業の最終年にあたる。課題として残った
 - ①安定した奨学金の給付システムの確立、
 - ②インドネシア政府機関との防災・環境に関する共同研究体制の確立については引き続き進め、平成28年度から人材育成における研究内容の深化が図られる体制を目指す。
- その一環として、本研究成果を中心に、研究体制の強化を図るためにH27度山口大学「研究拠点群形成（新呼び水）プロジェクト」に応募し、大学としての研究拠点化を目指す予定である。